

## Expert Perspectives on Management of Moderate-to-Severe Atopic Dermatitis: A Multidisciplinary Consensus Addressing Current and Emerging Therapies.

[Boguniewicz M](#)

[J Allergy Clin Immunol Pract.](#) 2017 Nov - Dec;5(6):1519-1531

この論文のコアな部分のみを訳しています。

米国では日本よりも早く生物学製剤である新薬 **dupilumab** (日本での商品名：デュピクセント) が発売されていますが、ガイドラインではまだ掲載されていません。そのためこの薬を使用するタイミング、重症度について解説しています。

現在米国アレルギー学会、米国アレルギー、喘息、免疫科大学のジョイントタスクフォース実地パラメータ、皮膚科学会ガイドラインを最新のものにする過程において新しい治療を時期に合わせて取り入れていない。この専門家委員会のゴールは文献と専門家

の意見に基づいてアトピー性皮膚炎の中等度から重症者の診断と治療に関連した合意と推奨をすることである。

この論文の重要な部分を **highlight** として述べている。

いくつかの一連のエビデンスはアトピー性皮膚炎が全身疾患であり、全身的な治療が疾患コントロールに重要な戦略である。

アトピー性皮膚炎が最低全身の **10%** 侵されているか、もしくは個々の病変が中等・重症、よく人に見える部位が犯されている、機能的に重要な場所であるか、または **QOL** が著明に犯されているならば中等症・重症アトピー性皮膚炎と考えるべきである。

治療の失敗とは次のように定義される。不適切な臨床的な改善、安定した長期疾患コントロール達成の失敗、治療中において進行性の障害、受け入れがたい副作用。

**中等症から重症のアトピー性皮膚炎の大人が安全で承認された治療で改善されないなら、またアトピー性**

皮膚炎が局所治療（訳注；一般的なステロイド外用・免疫調整剤外用）によっておさえられない中等症から重症のアトピー性皮膚炎の大人のための第一選択の全身的な治療選択肢として、委員会は **dupilumab**（日本での商品名：デュピクセント）を推薦する。

中等度から重度のアトピー性皮膚炎患者の治療を選択するとき、治療を決定する過程において患者と相談することは重要である。